

令和4年度 調布市立第五中学校 学校評価報告書（学校長 小坂 力）

学校の教育目標

「徳」思いやりと助け合う心をもとう。「知」自ら学ぶ人になろう。「体」心と体を鍛えよう。

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

「生徒一人一人に居場所があり、安心・安全で自分の力を伸ばせる学校」を目指す。

生徒の在籍数は「命の数」である。生徒一人一人の命に「生きる力」を育むことが、調布市立学校の使命と捉えているからである。

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	① 「話を聴く」「聴きあえる集団」	① 五中授業スタイルの確立	① 体育大会・合唱コンクール等
	② 週1回の学校いじめ対策委員会	② 市内中学校と連携した研究授業	② 健康・安全教育の充実
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	① 学校が楽しい	① 意欲的に授業へ取り組んでいる	① 学校行事は楽しく充実している
	② いじめの解消	② 授業は分かりやすく参加しやすい	③ 環境整備は行き届いている
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 学校へ楽しく通えているとの肯定的な回答が多く、生徒たちの心の安定が推測される。 いじめ問題については、今後も継続的に対応をお願いしたい。 週1の学校いじめ対策委員会により、早期発見・早期解決することにより、学校が楽しくいじめの解消につながっていく。 道徳の授業の充実が図られ、道徳性が養われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主体の対話的な活動が多く、新し学習指導要領に則り、授業づくりをしていると感じる。 子供たちが意欲的に取り組める環境を教師が努力しており素晴らしい。 講師を招いた授業研究などの取組みにより、生徒が授業に意欲的に参加しやすくなると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事が安全に行われ、生徒間が団結することの満足感が伺える。 「学校は楽しい」に通じる。自分の健康は自分でコントロールできる基礎を身に付けてほしい。 体育大会、合唱コンクールなどのクラス全体のイベントは、団結力やコミュニケーション能力を育むことのできる大切な行事である。伝統的なものは残してほしい。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4オリンピック・パラリンピック教育の推進	5地域人材等との特別支援教育の推進	6生涯を見通した「キャリア教育」
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	① 通級指導と連携した障害者理解等	① 放課後学習教室等による個別支援	① マイキャリアノートの作成
	② 地域と協働によるボランティア活動の充実		
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	① 違いを認め合える実感をもつ	① 755名の「学びの保障」	① マイキャリアノートの活用
	② ボランティアマインドの育成		
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 生徒達が地域にも意識を向けるような取組は継続してほしい。 障害者理解や国際感覚の向上を目指すことは、これからの子供たちにとって大切なことである。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々に応じた学びが保証されることは、とても大切でいいことと思う。 今後も個別支援は必要不可欠である。 個別支援のできる教室の設置があることにより、支援の必要な生徒にとってはありがたい教室である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯を見通したキャリア教育のためには、話をするのが苦手な生徒にとっては、マイキャリアノートの活用は実用的である。

人材育成・組織運営

自己評価	<ul style="list-style-type: none"> チームによるOJTの活性化 主幹教諭の管理職としての資質向上(毎朝の主幹会や喫緊課題の解決を通して) 適材適所の配置により、意欲と達成感をもたせ、主任教諭の学校運営意識の向上を図り、主幹教諭へ昇任させる。 支援・応援・指導し、全教職員の職務内容や教育実践を実現させ、生徒のために自立した教職員へ育成する。
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 教員一人一人の負担を軽減するには、管理職の責任の重さとリーダーシップが問われる。 生徒や保護者は昔とは変わっており、時代に合った教育が求められる。 持続可能な組織体制を構築してほしい。

中期的な経営目標の達成状況

生徒の居場所を作り取り組みは、成果を上げつつある。不登校や登校渋りの生徒への対応は関係機関と連携しながらしているものの、解決すべき課題である。

次年度の重点課題

生徒の在籍数は命の数という最重要課題に沿い、コミュニティスクール・モデル校としての取組を充実させ、「一人も置いていかない教育活動」を実践していく。

